

講師質問コース 回答

< 乳児保育分野 >

[講師] 大阪大谷大学 教育学部教育学科 教授 長瀬 美子 氏

この度は、「令和6年度 保育士等キャリアアップ研修<乳児保育分野>」をご受講いただきありがとうございました。

「講師への質問受付コース」にご入力いただきましたご質問について、講師からの回答を共有いたします。なお、多数のご質問をいただいたため、多くの方からご質問いただいた内容等を中心に回答いただいております。予め、ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

是非、今後の現場での実践に活かしていただけますと幸いです。

Q 全国で本研修を受講された受講者からの質問内容

A 質問に対しての講師からの回答

■ 遊び

Q 乳児なりの主体性を考えて環境を整えて遊ぶ中で、保育士で思いが合わない時がある。子どもが自ら選び考えて遊びをしていきたいが、制止が多くてどう考え方を擦り合わせていけばいいのか悩んでいます。いい方法はありますか？

A 制止が多くなるのも、心配など子どものことを思っでの行動だとは思いますが、制止をできるだけしないためには、安全で快適な環境設定が重要です。制止をせざるをえなかった時には、その後によい環境を見直し、子どもの行動を予想しながら様子を見守り、確認するなどが必要だと思えます。

Q 製作活動をする際に主な活動内容は決まっていますが、その後、どのようにその製作を生かして活動を終わらしたらよいか苦戦します。例えば、食べ物製作は、できた後に〇〇狩りや食べる真似をすることができそうですが、動物を製作した後が悩みます。そして、子どもが楽しく活動をしているかわからないことが多くあります。ぶどう狩りをした際も、あまり楽しい様子がなかったので、どのようにしたら主な活動の後のことも楽しく活動できるか知りたいです。

A 制作でつくったことに満足していれば、「できたね」とつくったことの楽しさや満足感に共感し、無理に次のことと考えるなくてもいいと思います。また、おとなの方から「次は・・・」と提示するだけではなく、子どもが行ったこと（食べるマネ、動物を歩かせたりなど）を取り上げ、いっしょにやってみるのもいいでしょう。制作を始めるときの導入を工夫することも必要だと思えます。動物の制作をするなら、草原や動物園の壁面や環境をつくっておき、「〇〇（動物）を草原であそばせてあげようね」などと伝えておき、保育者がつくったものをもってそこに促すと、自然にあそびに展開するのではないかと思います。

Q

感触遊びのところで、2歳児のクラスでは絵の具遊びをこの夏多く取り入れました。しかし、絵の具を触りたがらない子どもが数名いたので、筆を使って絵の具の活動を楽しめるようにすることもありました。また、その子たちは片栗粉遊びもあまり楽しめませんでした。そのような子どもたちも、感触遊びを楽しめるにはどうしたら良かったのでしょうか。

A

「楽しい」と感じられることが大切だと思いますので、感触の苦手な子には、強制することはよくないと考えています。まずは、抵抗感の少ないところから始めていければよいと思います。他園にも感触の苦手な子はいましたが、どの園でも、本人の抵抗の少ないところ、可能なところから始めているようです。道具を使ってあそんでいるうちに、少しずつでも大丈夫になる、すぐに手を洗ったり拭けるようにするなどして、慣れていくことが必要だと思います。

Q

高野豆腐の感触遊びでは、口に入れていた子はいたのでしょうか？ 衛生面は、どのようにされていたのでしょうか？

A

高野豆腐でなくても、口に入れようとする子どもは必ずいます。どんなものでも、よく注意して見守り、手で触るように見本を見せながら促していきます。衛生面は、寒天や氷などと同様に考えればよいと思います。

■ 食事

Q

1歳児クラスを担当しています。子どもの食事に関する質問なのですが、好き嫌いが出来て来て、「いらぬ」「たべたくない」という子に対して、どのような対応が適切なのか悩んでいます。前向きな声かけをしたり、励ましたりしながら頑張ってもらおうよう促すのですが、口に入れようとすると泣いてしまう事があります。一口だけでも食べてほしい気持ちがある反面、泣くまでして食べさせるのが正解なのかと疑問になる事があります。どのような対応が好ましいのか、教えて頂けたらと思います。よろしくお願ひします。

A

泣くまでして食べさせるのは、望ましくないと思います。食事は、おいしく楽しいことが基本であり、「嫌いなものを食べさせられる」だけの時間になってはいけないと思うからです。一口だけでも食べてほしい保育者の気持ちは理解できますが、それが圧や強制にならないように気をつける必要があります。子どもによってちがうと思いますが、その子が一番抵抗感の少ない形で「食べてみようかな」と思う手がかり（一口なら、小さければ、見ててくれたら、なにかといっしょならなど）を探してみてもはどうでしょうか。

Q

毎日の食事風景で気になる点として、椅子に足を上げたり・上に立ったりする子が多く、怪我をすることを伝えてもなかなか改善されず、食事のマナーとして、しっかり前を向いて座るとこや食事の挨拶をしていないことを伝え、座ることを促しても正しく座れない子が多く、食前・食後の挨拶を出来る子が少なく、それを許している職員も多い。好き嫌いが激しい子がいても、無理に食べさせない・無理に勧めない、自分の好きなものだけを食べさせる方針にしている園なので、昼食もおやつも何も食べない子がいるときもある。

A

食事のマナーとして伝えても、まだわからないですよね。心地よい経験の積み重ねが、必要な時期だと思います。椅子の高さ、深さなどを調整し、気持ちよく座って食べられる環境を整えます。無理に食べさせる必要はないと思いますが、その子が一番抵抗感の少ない形で「食べてみようかな」と思う手がかり（一口なら、小さければ、見ててくれたら、なにかといっしょならなど）を探して試しながら慣れるようにしてはどうでしょうか。

Q

食事中についてですが、いつも食べ始めて10分程でウトウト眠ってしまう1才児がいます。気分転換に手を洗ったり、ちょっと歩いたりして、もう一度食べ始めても少し経つとまた。。。こういう時や、眠くて泣き始めたら、もう辞めてしまってもいいのか、何か良いアドバイスがあれば知りたいです。

A

眠いのを起こされて食べさせられるのは、本人も負担ですね。給食室との相談も必要ですが、少しだけ早くから（5分でも10分でも）食事ができるように調整はできますか。一方で、保護者とよく話をし、必要なら生活の見直しにも取り組む必要があると思います。

Q

0歳児の食事について、丸呑みする子がいます。食材の柔らかさや大きさなど変えていますが、丸呑みします。このような場合は、どういう対応が考えられるでしょうか。

A

柔らかさや大きさなどは工夫されているようなので、以下に留意してみてもいいでしょうか。

- ・そのつもりはなくても急かしていないか
- ・スプーンにのせる量が適切か
- ・スプーンは奥まで入れず、口の前方で留めているか
- ・スプーンを抜くタイミングと口を閉じるタイミングが合っているか

Q

乳幼児期は、まだ3歳児検診の前で、配慮が必要な子かもしれないでも診断がついていない場合が多いです。もちろん、診断名が大事なのではなく、その子に合った関わりが大事ですが、私たち保育士もその専門ではないため、この関わり方でよいのかなど分からないながら関わっています。今回の受講で、食事場を振り返った時に、偏食への関わり方等が難しいなと思いながら聞いておりました。無理やり食べさせることも好ましくありませんが、栄養を取ること健康面で大切です。楽しく食事することはとても難しいなと感じております。

A

楽しくおいしいこと、バランスの良い食事は両方大切です。無理に食べさせる必要はないと思いますが、その子が一番抵抗感の少ない形で「食べてみようかな」と思う手がかり（一口なら、小さければ、見てくれたら、なにかといっしょならなど）を探して試しながら慣れるようにしてみてもいいでしょうか。

■集い

Q

0歳児の集いについてです。朝、集いをしていますが、何ヶ月頃からすると良いのでしょうか？

A

何ヶ月というのではなく、起きている子どもはいっしょに参加していいと思います。

■異年齢の同時保育

Q

保育園ではなく企業内託児所の為、異年齢の同時保育をどう実施したらいいのでしょうか？

A

異年齢であっても、各年齢の発達特性、個人の生活リズムを大切に保育を進めることは共通だと思えます。限られたスペースだとは思いますが、それぞれに合ったあそびやおもちゃを用意することも大切です。それとともに、差があるからこそのかかわり（あこがれ、真似、思いやり）なども大切にして、保育を進めることも大事です。

Q

0、1、2歳児の発達特性を学んだ上で、再度、園の子どもたちを思い浮かべると、より理解が深まりました。小規模で狭い室内で2歳までの異年齢が遊ぶ際、自分の世界観で遊んでいる2歳児が、大きい子の遊びに興味を持った模倣の時期の0歳児が近づき手を出すと、大きな声で怒る姿が見られます。2歳児の気持ちがわかるので、気持ちに寄り添った上で0歳児の気持ちも代弁すると、遊んでいたおもちゃを貸してくれることもあります。しかし、毎日のように同じ光景があると、2歳時児も心ゆくまで遊ぶことができないし、拒否をされて悲しそうな表情の0歳児の事も気がかりです。小規模保育で部屋の数や環境が限られている場合、双方が気持ちよく生活できる良い案があったらお尋ねしたいです。（時間や保育士の配置ができるときは、分かれて活動をしています。一緒の空間で遊んでいるときに起こります。）

A

複数の方向からのアプローチが大切だと思います。

2歳児には、

①2歳児だけであそべる機会を保障する

②「〇〇ちゃん（0歳児）は* *ちゃん（2歳児）がやってることがおもしろそうだから近くに來るんだね。* *ちゃんが終わったら〇〇ちゃんに教えてあげようね」と伝えるなどがあるでしょう。

0歳児には、代替手段（興味をもった別のもの）を用意して、そこであそべるようにするなど必要かもしれません。

■制度

Q

「子どもだれでも保育制度」と「一時預かり」の違いは、何ですか？保育者の負担がますます増えるのではないのでしょうか？

A

この両者の違いは、わかりにくいですね。考え方としては、「一時預かり」は保護者が必要になったときに利用する制度（保護者のサポート）、「こどもだれでも通園制度」は一定時間内で子どもに保育を提供するもの（子ども育成の制度）、という違いとされています。保護者にとっては、あまり違いがないかもしれませんね。「一時預かり」には上限はありませんが、「こどもだれでも通園制度」は上限が決まっています（月8日まで）。

■ 担当制

Q

現在の園は、保育の担当制ではなく、複数担任で保育をしておりますが、担任でも担任以外の保育士が入ると人見知りで泣いてしまう子が多数みられます。担当制を導入していると、担当保育士以外の関わりが少ない分、休みの日や当番の時間などは他の保育士は様子がわからなかったり、泣く子がさらに多くなるのではないかと思います。導入されている園は、どのようにされているのかなと思っております。

A

担当制をしていてもしていなくても、他の保育者がいることで泣くことはあるかと思いますが、かかわっているうちに慣れてきます。もちろん、子どもによってなれる期間には差があると思いますが、担当制をしているから他の保育者に対してずっと泣いているということまではないと思います。

■ 試し行動

Q

試し行動をする乳児に対して、どのような対応があるか教えていただきたいです。幼児であれば、言葉が通じると、ある程度の危険予測ができるので、試し行動をしても、構って貰えないことを伝えられるのですが、乳児の場合は、言葉が上手く伝わらず放っておくと危険な行動をしてしまうので教えていただきたいです。

A

試し行動をするのは、何らかの不安（この人はどういう人か、ちゃんと自分を見てくれているか）があるからでしょう。まずは、「あなたのことを大切に思っている」「ちゃんと見ている」ということをことばと態度で示すことです。その上で、話をするときにはしっかりと向かい合い、話をします。ことばが通じるとかどうかわけなく、危険なことをしてはいけないことを、様子も含めてしっかり伝えましょう。一度でわからせようとせず、その都度伝えます。おとなは、よく「〇〇してはダメ」と言いますが、それだけではどうしていいかわからないので、「* * しましょう」とイメージしやすく、促す方向での声かけを心がけるといいと思います。

■ 危険な行動

Q

0歳児クラスです。子どもの歩行が安定し、歩ける子どもが増えてきました。そんな中で、高いところに登ろうとする子どもが増え、思考錯誤し、棚の上には登らないようになりました。（横向きから縦向きに向きをかえました。）しかし、本棚だけが形を変えられず、どうしてもよじ登る子どもがいます。登るといふ行為から、子どもなりにこうしよう・あれしようと考えていると思うと、見守るべきなのかと思うのですが、怪我にならないか心配です。どのようにすれば、登らなくなりますか。

A

0歳児は、今、場所の意味を獲得している真っ最中です。すぐにはわからなくても、くりかえしの中で「登っていい場所」「登ってはいけない場所」を覚えていきます。「登らなくする」という方向ではなく、他の楽しいことを知らせる、登って楽しいあそびを別に用意するなどの複数の方向からかかわる必要があると考えます。

■ 職員関係

Q

「応答的なかわり」について、保育者同士で対話をする機会を持ちたいと思っています。乳児保育の中で、どのように進めていくとよりよい対話になるでしょうか。

A

「どうしたらいいかわからない」など、悩み事などを相談し合えるのも大事ですが、働きかけてみてよかったこと、手ごたえがあったことなどを共有しながら、「応答的なかわりってこういうことだね」と確認し合えると、共通理解をしながらいっしょに進められるのではないかと思います。

Q

職員の保育感の違いから、思うように環境設定ができない際に、それぞれの意見を持ち寄って認め合う職場の雰囲気はどう作っていけば良いか。子ども達の目線で環境設定を行いたいのが、職員の思いや趣味嗜好が日々の保育に大きく影響して、子どもに寄り添った環境設定が難しい場合、最低限、ここは子ども達にとって整備してあげたほうが良いという内容にはどのようなものがあるか。

A

それぞれに考え方があるとは思いますが、大切なのは子どもの安心・安全と健やかな発達です。価値観のぶつかり合いになると共通理解がしにくいので、子どもの様子（とまどっている、どうしていいかわからない、やろうとしたことをやめてしまうなど）から、環境との不一致が起こっていないかを確認、できることから一つずつ改善していくように話してはどうでしょうか。

Q

保育教諭になり、20年が経ちました。経験年数の浅い先生とクラスを持つ機会が増え、自分では当たり前と思っている感覚が伝わっていなかったり、若いのが故の余裕のなさでバタついていたり…の場面があります。その都度、声をかけ、アドバイスやサポートを行っていますが、複数担任での連携の難しさを感じています。これからの若い世代の先生方の育成は、こういった声かけや指導が伝わりやすいのでしょうか。

A

丁寧に若手の先生方に伝えていってほしいと思います。アドバイスやサポートも大切ですが、やってみてどうだったか、どう感じたかを聞くなどのフォローやアフターが大切だと思います。若い保育者は「言われたことしかしない」と言われますが、自分で考えてすることに不安があるのでしょう。やってみての思いを聞いてもらえたことが、「言われたからする」から「やってみてわかったから次もやってみる」につながると思います。

■ 発達

Q

自分が興味のある活動には参加するが、興味のないお集まりなどには参加しようとせず、保育室をウロウロしている。保育士が声を掛けると癩癩を起し、パニックになることも多々あるので、最近はそのとおき、自分のタイミングで活動に参加してもらうことが多い。言葉もあまり出ず、10月に入って少しずつ2語文が話せるようになってきている。3歳児検診の際に園から保健師さんに相談し、言葉の発達の話を持っていくと、「様子を見る」と保護者が主張したので話を進められなかった。このような2歳児との関わり方は、とても悩みながら保育をしている。

A

その子どもの、興味のあることを増やしていくことも大切なのではないかと思います。すでにされているように、おとながしてほしい時ではなく、子どものタイミング（一区切りした、こちらを見ている、気にしているなど）で、声をかけることも大切だと思います。声をかけてすぐに行動しないかもしれませんが、「〇〇が終わったら来てね」など行動を示し、促しながら見守ることも必要だと思います。

Q

乳児クラス・幼児クラスを担当させて頂いたことがあるのですが、発達が気になるなど感じる子どもや保護者への対応は、とてもデリケートな部分であるのですが、様々な対応を今までしてきましたが、どの対応が一番正解なのか、子どもや保護者により良い導きなのかを日々模索中です。何かアドバイスや経験談を教えてくださいと幸いです。

A

「正解」というのは難しいですが、働きかけた後の子どもや保護者の様子を把握することが大切だと思います。また、一度ではなかなか届かないこともあるので、その都度、くりかえし働きかけていくことで、時間をかけてわかってくることもあります。おとなはよく、「〇〇してはダメ」と言いますが、それだけではどうしていいかわからないので、「* * しましょう」とイメージしやすく、促す方向での声かけを心がけるといいと思います。

■ 噛みつき等

Q

現在1歳児クラスの担任をしているのですが、よくかみつきや手が出る子どもがいます。子どもの気持ちに共感したり、「こういうときは〇〇っていうんだよ」と伝えたりしますが、少し収まってはまた繰り返すことが多いです。また、周りの友達も何人か真似をしているのか、手を出すことが増えてきました。今までしてきたように、根気強く繰り返し伝えていけばよいのか、もし、他に方法がありましたら、教えていただきたいと思います。

A

思いを読み取り、共感しながら、根気強く働きかけていくことになると思います。その際、「〇〇って言うんだよ」とことばで伝えるように促すのは大切ですが、ことばで言えるようになるまでの間、他の方法・行動（×をする、手を前に出すなど）を教えることも必要だと思います。ずっと行動で示していいというわけではないので、過渡的なものです。かみつきから一足飛びにことばへではなく、人を傷つける方法を傷つけない方法へ、そして、ことばへと段階的に進めることも検討してください。

■ 保育環境

Q

子どもたちの記録を残すことが重要なことがわかりました。子どもたちを見守っていく中で、子どもの気持ちを大切にいくことが、保育者に必要なことがわかりました。その中で、安心して過ごせるように、保育者が取り組める方法をお聞きたいです。

A

特に大切だと思うことが三つあります。

それは

- ① 信頼関係の確立（子どもの思いにしっかり応答する）
- ② 生活の安定的な繰り返し
- ③ 快適な環境づくり

です。環境については、子どもの様子（とまどっている、どうしていいかわからない、やろうとしたことをやめてしまう など）から、環境との不一致が起こっていないかを確認、改善していくとよいと思います。

Q

近年、子ども真ん中社会という言葉をよく耳にし、子どもを取り巻く環境というものがとても注目されております。今回の研修の中でも、乳児保育の環境というものがありません。私の周り(別の園に務める方)では、集団保育は時代錯誤の考え方だという意見を耳にすることもありません。乳児保育に限られたことではないのかもしれませんが、モンテッソーリ教育や集団保育ではなく、自由保育(朝の会や帰りの会を行わない、好きな時に好きな遊びをし、午睡も自由に行える 等)のメリットや良さはたくさんあると思いますが、(否定するわけではなく)反対にデメリットも知りたいなと思いました。

A

集団保育が子どもを大切にしていない、自由保育が子どもを大切にしているということではないと思います。好きな時間に食事や午睡をする方法は、一人ひとりのペースに合わせてくれるよさがありますが、「みんなでいっしょに食べるとおいしいね」と感じられる食事の時間や他児とのかわりの中で育ち合うことなど、集団保育ならではの大きな魅力があります。

■ 指導計画

Q

クラス全体がともに成長できるような計画をとのことでしたが、月齢関係なく、発達が早い子は次のステップに進めず、みんなが足並みをそろえるまで待っていたほうがよいのでしょうか。みんなで足並みをそろえるのも大切であることも分かっています。

A

私の伝え方が不十分ですみません。待たせる、子どもがやりたいことを制限する、ストップをかけるということではありません。でき方、わかり方の違いはあっても、一緒に取り組める活動を大切にすることです。もちろん、同じことでも、できた後の習熟には差があるかもしれません。共通して、これは経験してほしいということをねらいに定め、もっとしたい子ども、できる子どもにはそれを保障していくことだと思えます。

■保護者対応

Q

毎晩かなり遅い時間まで就寝せず、ご家庭での生活リズムが整いにくいお子さんがいらっしゃいます。その為、いつも園で眠そうで、活動にも意欲的になれない場面が少なくありません。保護者へご協力いただけるとありがたいと思っているのですが、ご気分を害することなくうまく伝えられるようアドバイスいただけないでしょうか？

A

いつもより機嫌よく過ごしていた日に、早く就寝できていたことを連絡帳で確認しておいて、お迎えに来た保護者に「今日、とても機嫌よく過ごしていましたよ。お家ではどうですか？」などと話し、早く寝たことで機嫌よく過ごせたことを感じていただけるようにしながら、生活リズムをいっしょに整えていくのはどうでしょうか。

Q

保育士側が、その子自身に応じた食事方法、着脱や排泄時の介助方法を保護者にも伝えても、同じように家庭で取り組んでもらえない場合などは、どのようにしていけば良いのでしょうか。保育園側だけでしても、休みの期間などが長いと戻ってしまったり、子ども自身も経験不足で、集団とずれが大きく出てしまう場合など、今の保育環境において、1人保育士がその子だけにつくことが難しく対応に悩んでいます。

A

いつもより自分でがんばって着脱や食事に取り組んだ日に、お迎えに来た保護者に「最近〇〇がとても上手になってきましたよ。お家ではどうですか？」などと話し、家庭でもやってみていただきながら、生活技術の獲得に、保護者といっしょに取り組んでいくのはどうでしょうか。

Q

「うちの子の特性をもっと理解してほしい」という一方で、「〇〇が出来る(好きだ)から、うちの子に〇〇をやらせてほしい」「今年こそ行事は本番もできるようにしてほしい」と思いが強い保護者さん。それが子どものプレッシャーになってしまい、疲れてくると、「ストレスだと思う」と言う(悪気はないが園に要因があると解釈)。その都度、寄り添い、親子共に安心できるよう対応しているがどうしたらよいでしょうか。

A

両方とも保護者の本当の気持ちであり、その間で揺れるのだと思います。まず、そこを理解してかかわることが大切です。できた姿、できつつある姿を共有し、「できる」に向けての本人のがんばり(過程)をていねいにお伝えいただければと思います。「ストレスだと思う」と保護者が言う時には、「〇〇ちゃんは、がんばっているんだね」とそれに応えながら、「負担になりすぎないようにいっしょに見守っていきましょう」と伝えてはどうでしょうか。

■ 関わり

Q

子どものいやという気持ちなのですが、全部が全部嫌だよね、と気持ちを聞かないといけないのでしょうか？

A

イヤという気持ちは受けとめ、話を聞く方がいいと思います。ただ、受けとめる、話を聞く=行動を許すではありません。いろいろな思い（少なくとも快ではない状態）があってイヤを発信しているので、「イヤだったね」と受けとめ、落ち着かせ、可能なところから「○○しよう」と気持ちの切り換えを促すことが必要だと思います。

Q

研修に関係はないのですが、毎回対応に困ってしまう場面があって、朝の受け入れ時に保護者からどうしても離れきれずに時間がかかり、こちらが声掛けをしてもなかなか離れきれない子の対応の仕方が知りたいです。こちらも工夫して声掛けをしたり、抱っこをしようとしたりするのですが、やはり嫌がっている子どもを無理やり保護者から引き離すのは心が痛みます。

A

十分にされているとは思いますが、離れたくない気持ちを受容したうえで、「今日は○○しようね」など、先のご事に期待がもてるような声かけをすることだと思います。「無理やり引き離す」と思わない方がいいと思います。「お母さんもがんばってお仕事して、急いで迎えに来てくれるからね」と伝え、いっしょに見送れるようにします。迎えに来た時に、「お母さん、急いできてくれたね。明日も元気で来てね」と伝え、ちゃんと迎えに来てくれることが実感できるようにすることも必要だと思います。